

【静岡県】磐田市農業再生協議会

方法



協議会の概要

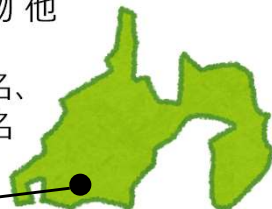
申請件数・確認面積:56件,約128ha(R7)

主な申請品目:麦、新規需要米、
高収益作物 他

協議会事務局:市役所

経安主担当者:市職員1名、
会計年度職員1名

静岡県磐田市



現在の現地確認方法の導入経緯

- ・導入前は、現地確認の際に、紙地図を作成する必要があり、その**作業に多くの時間がかかっていた**。
- ・現地を確認する際も、**豊富な経験や土地勘**を必要とし、**経験の少ない職員では多くの時間を要した**。
- ・紙ベースでの業務が非効率的であることも課題であった。
→以上の問題を改善するため、**タブレット型現地調査システムを導入**した。

現地確認の方法

(対象筆数:R6年3,287筆、R7年1,688筆)

	導入前 (R3年度まで)	現在 (R4年度から)
方法	目視 (紙地図、野帳)	目視 (タブレット)
確認者	市職員1名、会計年度職員1名	市職員1名、会計年度職員1名
時期・回数	5～10月、追加で数回	6月、8～10月、追加で数回
手順	<ul style="list-style-type: none">①現地確認用の地図(構図)作成②1筆ごとに現地にて目視で確認③紙地図、野帳に記入④確認結果を水田システムへ入力、不明農地を台帳及び本人へ確認	<ul style="list-style-type: none">①水田システムからタブレットへデータを移す②1筆ごとに現地にて目視で確認③タブレットへ入力④確認結果を水田システムへ入力、不明農地を台帳及び本人へ確認

導入の効果(メリット)

- ・確認用の**地図を作成する作業時間が大幅に削減**された。
- ・現地確認業務へ持ち出すものが**タブレット1つ**となった。
- ・タブレットの導入により、**経験が浅い担当でも場所の特定が容易**になった。
- ・確認した情報をPCなどへ移す**作業が容易**になった。

使用しているタブレット



課題・問題点(デメリット)

- ・麦の作付け確認の時期は、水田システムへのデータ入力に間に合わないなど等の理由から、タブレットを活用して行うことができない。